授業科目	生命と健康	担当教員	宮野　晃一郎		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	生命倫理に関する幅広い知識や概念などについて理解する。				
到達目標	生老病死の意味、生命倫理の基本概念について理解し、生命の尊さを自らの生き方につなげて考え、論じることができる。				
テキスト・参考図書等	参考図書・医療の倫理：星野一正(岩波新書)　・叢書現代の宗教 9 現代医学と宗教：日野原重明(岩波新書)　・看護のための生命倫理：小林亜津子(ナカニシヤ出版)　・現代医療の道徳的ジレンマ				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	80	①定期試験 80% ②レポート 10% ③提出物 10%
レポート	10	
小テスト	0	
提出物	10	
その他	0	

履修上の留意事項

①提起したテーマについて、ビデオや参考書などの視聴や読書を通して学んだ基礎知識と教員の講義内容に基づいて、ディスカッションにより内容の理解を深めていくスタイルをとる。②授業の展開に当たっては、学生の発言の多寡が授業の内容を左右するので、学生の積極的な発言による授業参加を期待する。③章終了ごとにレポートの提出。未提出者及び提出に値しない内容のレポートについては、評価に関して減点の対象となるので、特段の注意をすること。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	考えることに慣れる(1) 自己の視点・他者の視点	自分が「ふつう」と思うことを、相手も「ふつう」と思っているとは限らない。自分と他者の観点の違いを体験する。
2	考えることに慣れる(2) モラル・ジレンマ	問題に直面したとき貴方なら、どのように行動するか。モラル・ジレンマに対して自分なりに答えを出して見る。
3	健康について考える(1)	病気を治すこと、健康を気づかうことは自然なことである。しかし、どこまでも健康を追求すべきなのだろうか。
4	健康について考える(2)	現代医学では、受精卵の段階で病気の有無を調べることができる。自分たちの望みのままに子どもを創ることは許されるのだろうか。
5	健康について考える(3)	現代医学では、遺伝病のリスクを診断することはできる。しかし、すべての病気に治療法が存在するわけではない。治療法がなくても知ることは「よい」ことなのだろうか。
6	健康について考える(4)	ヒトゲノムの解析によって、人間の在り方は大きく変わる可能性がある。遺伝子で人間を判断する社会とは、どのようなものなのか。
7	生命について考える(1)	日本は中絶天国と呼ばれるほど人工妊娠中絶の規制が緩い。生命が重さを失いつつある現在、改めて人工妊娠中絶について考える。
8	生命について考える(2)	晩婚化・出産の高齢化が進行すると同時に、少子高齢化が進んでいる。しかし、他の女性を道具とする代理出産は道徳的に許されるのだろうか。
9	生命について考える(3)	延命技術の発達によって、いまや私たちは「どのように死ぬか」を自ら考えなければならなくなった。ターミナルケアについて考える。
10	生命について考える(4)	医療技術には限界がある。現状では「死の自己決定」(安楽死・尊厳死)から目を背けることはできない。「死の自己決定」の意義と問題点を考える。
11	生命について考える(5)	もし視力を失ってしまったら、あなたはどうしますか。暗闇と沈黙のなかで生きるとはどのようなことなのだろうか。それでも人間として生きることは可能だろうか。
12	移植医療について考える(1)	臓器移植に賛成する者が多いのに、ドナーカードの普及率は極端に低い。日本における臓器移植の現状について考える。

	13	移植医療について考える(2)	臓器移植の技術が進むと、移植用臓器の不足は避けられない。先進諸国が途上国の臓器を買い叩いている現実について考える。
	14	組織における人間の行動(1)	自分が勤務している会社(医療機関)が不正していることを知ったとき、貴方はどのような行動をとるだろうか。
	15	組織における人間の行動(2)	内部告発した者を保護する「公益通報者保護法」が 2006 年に施行された。その内容を理解し、問題点について考える。

授業科目	生命と健康	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	歯科診療補助法 II	担当教員	伊藤　彩		
対象年次・学期	2 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	臨床における様々な状況に対応できる能力と技術を習得する。				
到達目標	歯科治療の術式を理解し、適切に器具・材料を準備できる。エックス線写真準備を的確に操作できる。模型作製や暫冠被覆冠の作製ができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」(医歯薬出版)　・最新歯科衛生士教本「歯科材料」(医歯薬出版) ・最新歯科衛生士教本「歯科機器」(医歯薬出版)　・使用器材：スケーラーセット、顎模型、グローブ、マスクなど				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①定期試験 80% ②レポート点 20%
	レポート	20	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①相互実習を中心に行う。　②頭髪・身だしなみを整える。　③時計・アクセサリー類は外す。 ④白衣に着替える時、下着・パンストを着用する。　⑤時間厳守。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	4 章　⑦矯正治療時の診療補助	矯正治療の例と診療補助の流れ(装置に使用する器具・材料の名称)
	2	3 章　⑤画像検査	1.エックス線写真撮影　2.口腔内写真　3.画像管理
	3	1)口腔法エックス線	相互実習 1:口内法エックス線撮影実習と画像管理実習
	4	2)パノラマエックス線	相互実習 2:パノラマエックス線撮影実習と画像管理実習
	5	3)口腔内写真	相互実習 2:口腔内写真撮影実習と画像管理実習
	6	5 章　②模型作製 1	2.歯科用石膏の練和　2)スタディモデル作製実習 1(相互実習)
	7	5 章　②模型作製 2	2.歯科用石膏の練和　2)スタディモデル作製実習 2(相互実習)
	8	5 章　②模型作製 3	2.歯科用石膏の練和　2)スタディモデル作製実習 3(相互実習)
	9	5 章　②模型作製 4	2.歯科用石膏の練和　2)スタディモデル作製実習 4(相互実習)
	10	5 章　②模型作製 5	3.歯科用石膏の管理方法
	11	4 章　⑤補綴治療時の診療補助 1	3 章-⑧歯肉圧排　5 章ー①印象採得
	12	4 章　①印象採得 1	3.寒天印象採得の補助　模型作製実習＋歯肉圧排 1
	13	4 章　①印象採得 2	3.寒天印象採得の補助　模型作製実習＋歯肉圧排 2
	14	4 章　①印象採得 3	3.寒天印象採得の補助　模型作製実習＋歯肉圧排 3
	15	4 章　①印象採得 4	4.合成ゴム質印象採得の補助　模型作製実習＋歯肉圧排 1
	16	4 章　①印象採得 5	4.合成ゴム質印象採得の補助　模型作製実習＋歯肉圧排 2
	17	4 章　①印象採得 6	1)個人トレー・個歯トレーの作製
	18	5 章　④成形歯冠修復の補助 1	即重重合型レジン 1　既成緩を用いたテンポラリークラウン(前歯・臼歯)
	19	5 章　④成形歯冠修復の補助 2	即重重合型レジン 2　印象採得によるテンポラリークラウン(ブリッジ)
	20	5 章　④成形歯冠修復の補助 3	即重重合型レジン 3　印象採得によるテンポラリークラウン(冠)

	21	4 章　⑧小児歯科治療時の診療補助 1 4 章　③共同動作　5. 器具の受け渡し 1	3 章　⑦ラバーダム防湿(マネキン実習) ②歯内療法時の診療補助(根管治療＋根管充填)1(マネキン実習)
	22	4 章　⑧小児歯科治療時の診療補助 2	3 章　⑦ラバーダム防湿(2 歯露出)＋隔壁法 1(相互実習 1)
	23	4 章　⑧小児歯科治療時の診療補助 3	3 章　⑦ラバーダム防湿(3 歯露出)＋隔壁法 2(相互実習 2)
	24	4 章　③共同動作　5. 器具の受け渡し 2	②歯内療法時の診療補助(根管治療＋根管充填)2(相互実習)
	25	Ⅱ編　1 章主な全身疾患とその対応 1	①主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点 1
	26	Ⅱ編　1 章主な全身疾患とその対応 2	①主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点 2
	27	2 章　❶周術期における歯科診療の補助	2 章　①周術期口腔機能管理の概要　2.病態の把握　3.治療時の対応
	28	Ⅱ編　3 章歯科訪問診療にける対応 1	①歯科診療補助　2.歯科訪問診療の流れ 1
	29	Ⅱ編　3 章歯科訪問診療にける対応 2	①歯科診療補助　2.歯科訪問診療の流れ 2
	30	附ー臨床検査データシート	血液学・生化学・免疫学検査・病態ち代表的な検査との関連、他

授業科目	歯科診療補助法 II	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	2 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	生命・医療倫理学	担当教員	松本　崇嗣		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	歯科衛生士に求められる心構えやインフォームド・コンセントに基づいた患者対応、医療現場で必要となるコミュニケーション技術やその基礎となる行動科学について学ぶ。				
到達目標	チームの医療の一員として倫理的判断に基づいた行動がとれること。インフォームド・コンセントや生活の質（QOL）について理解し、それを説明・実践できること。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯科医療倫理」(医歯薬出版)				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	70	①定期試験 70% ②レポート 20% ③コミュニケーション能力・プレゼン能力 10%
レポート	20	
小テスト	0	
提出物	10	
その他	10	

履修上の留意事項

①教本を中心に講義を進めていきます。講義では新しい医の倫理の原則を学びます。②実際に起こり得る倫理的問題への対象の仕方について具体的な事例を取り上げ、「ケアの倫理的問題」の実践的教育を実施します。③さまざまな考えをレポートにしてまとめる。④決められた期日にレポートを提出すること。
⑤グループディスカッションでは、自分の考えをまとめて話せること。⑥人の考えを聞けること。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	新しい医の倫理（松本）	医師中心の医療から患者中心の医療へ
2	バイオエシックス（生命倫理学）（佐藤）	バイオエシックスとは何か
3	バイオエシックスに関わる問題（佐藤）	生命の始まりと終わりに関する問題
4	インフォームド・コンセント（松本）	インフォームド・コンセントの実際
5	研究と医療倫理（松本）	研究と倫理的な配慮
6	歯科医療倫理に必要な行動(松本)	患者と医療従事者の行動
7	行動科学（松本）	医療従事者の行動特性
8	チームアプローチとは（松本）	チームアプローチの成功のポイント

授業科目	生命・医療倫理学	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	看護学概論・救急処置	担当教員	川島　清志		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	看護を学習することにより、患者の口腔内のみならず、身体的変化を早期に発見し、急変場面に対応できる知識・技術を身につける。				
到達目標	緊急時の患者管理法を習得する。歯科衛生士の役割と看護の関わりを述べることができる。				
テキスト・参考図書等	随時、プリント配付				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	80	①定期試験 80% ②実技試験 20%
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	20	

履修上の留意事項

①講義と演習を交えながら進める。　②私語禁止。　③身だしなみを整える。　④演習は動きやすい服装で受講すること。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	救急看護の基本　(川島)	救急医療と看護の特色
2	救急時の主な症状と看護 1 (川島)	呼吸、循環、体液、意識 、輸液管理
3	救急時の主な症状と看護 2 (川島)	心肺停止
4	救急時の主な症状と看護 3 (川島)	ショック
5	救急時の主な症状と看護 4 (川島)	意識障害、頭痛、めまい、他
6	救急時の主な症状と看護 5 (川島)	発熱
7	救急時の主な症状と看護 6 (川島)	呼吸困難
8	救急時の主な症状と看護 7 (川島)	胸痛不整脈
9	救急時の主な症状と看護 8 (川島)	腹痛、嘔吐
10	救急時の主な症状と看護 9 (川島)	尿の異常
11	救急時の主な症状と看護 10　(川島)	外傷、その他の処置（ドレーン等）
12	救急時の主な症状と看護 11　(川島)	褥瘡、創傷、治癒、特別病態(中毒、熱傷、その他)
13	救急時の主な症状と看護 12　(荒谷)	一次救命処置 1
14	救急時の主な症状と看護 13　(荒谷)	一次救命処置 2
15	災害医療（荒谷）	ストレス、危機管理 PTSD、Dental　Phobia、CSCATTT（災害医療）

授業科目	看護学概論・救急処置	担当教員 実務経験	荒谷和興 有：■　　無：□	救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	歯科予防処置法 II	担当教員	橋本　李奈		
対象年次・学期	2 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	45 回	時間数	90 時間
授業目的	シックルスケーラー、キュレットスケーラー操作の技能の習得。歯面研磨、PMTC の技能の習得。超音波スケーラー、エアスケーラー操作の技能の習得。				
到達目標	齲蝕予防に関する口腔保健管理ができる。歯周病予防に関する口腔保健管理ができる。歯周疾患の初期治療ができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)　・使用器材:スケーラーセット、顎模型、口腔ケアセット				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①定期試験 80% ②レポート 10% ③実習態度・技能点 10%
	レポート	10	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	10	

履修上の留意事項	①2 人、3 人 1 組の相互実習を中心に行う。　②スケーラー操作の技能が目標基準に達していない人は補習をする。　③スタンダードプレコーションに従って相互実習を実施する。　④体調管理に気を付ける(欠席、遅刻、早退は厳禁)。　⑤実習生としてのマナー、清潔な白衣、エプロン、実習靴、マスク、グローブを身につける。化粧・毛染めはしない、頭髪、爪、ピアスは外す。挨拶、返事、言葉遣い。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	III編　1 章歯科衛生過程の進め方 1	III編　1 章ー❶歯科衛生過程の進め方　❷歯科衛生過程の各構成要素
	2	III編　2 章歯科衛生アセスメントとしての情報取集と情報処理 1	2 章ー❶患者からのの情報収集　❷全身の健康状態の把握（相互実習 1）
	3	III編　2 章歯科衛生アセスメントとしての情報取集と情報処理 2	3 章ー❽分析のためのデータ（口腔衛生状態の指数：相互実習 1）
	4	III編　2 章歯科衛生アセスメントとしての情報取集と情報処理 3	3 章ー❽分析のためのデータ（口腔衛生状態の指数：相互実習 2）
	5	III編　2 章歯科衛生アセスメントとしての情報取集と情報処理 4	3 章ー❽分析のためのデータ（歯周疾患の指数：相互実習 1）
	6	III編　2 章歯科衛生アセスメントとしての情報取集と情報処理 5	3 章ー❽分析のためのデータ（歯周疾患の指数：相互実習 2）
	7	III編　2 章歯科衛生アセスメントとしての情報取集と情報処理 6	3 章ー❽分析のためのデータ　2.口腔内写真撮影（相互実習 1）
	8	III編　2 章歯科衛生アセスメントとしての情報取集と情報処理 7	3 章ー❽分析のためのデータ　2.口腔内写真撮影（相互実習 2）
	9	III編　2 章歯科衛生アセスメントとしての情報取集と情報処理 8	3 章ー❽分析のためのデータ　2.エックス線写真（症例検討 1）
	10	III編　2 章歯科衛生アセスメントとしての情報取集と情報処理 9	3 章ー❽分析のためのデータ　2.エックス線写真（症例検討 2）
	11	III編　2 章歯科衛生アセスメントとしての情報取集と情報処理 10	3 章　3.歯周病に関する検査(演習)
	12	III編　2 章歯科衛生アセスメントとしての情報取集と	3 章　4.う蝕に関する検査　う蝕活動性試験（歯垢検査と唾液検査)

		情報処理 11	
	13	III編　2 章歯科衛生アセスメントとしての情報取集と情報処理 12	3 章　5.う蝕に関する検査　う蝕活動性試験（演習）
	14	III編　3 章　歯科衛生介入のための歯科予防処置 1（佐竹）	インプラント治療の概要～歯科衛生士の立場から
	15	III編　3 章　歯科衛生介入のための歯科予防処置 2（佐竹）	インプラント治療の基本構造
	16	III編　3 章　歯科衛生介入のための歯科予防処置 3（佐竹）	インプラントのためのコンサルテーション
	17	III編　3 章　歯科衛生介入のための歯科予防処置 4（佐竹）	インプラント手術での歯科衛生士の役割
	18	III編　3 章　歯科衛生介入のための歯科予防処置 5（佐竹）	インプラント治療の概要～歯科医師の立場から
	19	III編　3 章　歯科衛生介入のための歯科予防処置 6（松本）	インプラント患者のメインテナンス（相互実習）
	20	III編　3 章　歯科衛生介入のための歯科予防処置 ❶SRP 実習 1	3 章ー❶-歯周検査＋SRP 実習（マネキン実習）
	21	III編　3 章　歯科衛生介入のための歯科予防処置 ❶検査実習 1	3 章ー❶-①下顎前歯部：PCR 検査＋SRP 実習（相互実習：練習）
	22	III編　3 章　歯科衛生介入のための歯科予防処置 ❶検査実習 2	3 章ー❶ー②下顎前歯部：PCR 検査+SRP 実習（相互実習：評価）
	23	III編　3 章　歯科衛生介入のための歯科予防処置 ❶検査実習 3	3 章ー❶-③下顎前歯部：歯周検査＋SRP 実習（相互実習：練習）
	24	III編　3 章　歯科衛生介入のための歯科予防処置 ❶検査実習 4	3 章ー❶ー④下顎前歯部：歯周検査+SRP 実習（相互実習：評価）
	25	III編　3 章　歯科衛生介入のための歯科予防処置 ❶検査実習 5	3 章ー歯科衛生評価；症例検討 2
	26	III編　3 章　歯科衛生介入のための歯科予防処置 ❶SRP 実習 1	3 章ー❶ー⑤上顎前歯部：SRP+PTC 実習（相互実習：練習）
	27	III編　3 章　歯科衛生介入のための歯科予防処置 ❶SRP 実習 2	3 章ー❶ー⑥上顎前歯部：SRP+PTC 実習（相互実習：評価）
	28	III編　3 章　歯科衛生介入のための歯科予防処置 ❶SRP 実習 3	3 章ー❶ー⑦下顎右側臼歯部：SRP+PMTC 実習（相互実習：練習）
	29	III編　3 章　歯科衛生介入のための歯科予防処置 ❶SRP 実習 4	3 章ー❶ー⑧下顎右側臼歯部：SRP+PMTC 実習（相互実習：評価）
	30	III編　3 章　歯科衛生介入のための歯科予防処置 ❶SRP 実習 5	3 章ー歯科衛生評価；症例検討 3
	31	III編　3 章　歯科衛生介入のための歯科予防処置 ❶SRP 実習 6	3 章ー❶ー⑨下顎左側臼歯部：超音波スケーラー＋SRP 実習（相互実習：練習）
	32	III編　3 章　歯科衛生介入のための歯科予防処置 ❶SRP 実習 7	3 章ー❶ー⑩下顎左側臼歯部：超音波スケーラー＋SRP 実習（相互実習：評価）
	33	III編　3 章　歯科衛生介入のための歯科予防処置 ❶SRP 実習 8	3 章ー❶ー⑪上顎右側臼歯部：エアスケーラー+SRP 実習（相互実習：練習）
	34	III編　3 章　歯科衛生介入	3 章ー❶ー⑫下顎右側臼歯部：エアスケーラー+SRP 実習

		のための歯科予防処置 ❶SRP 実習 9	（相互実習：評価）
	35	III編　3 章　歯科衛生介入のための歯科予防処置 ❶SRP 実習 10	3 章ー❶ーPCR 検査＋歯面清掃実習（相互実習：練習）
	36	III編　3 章　歯科衛生介入のための歯科予防処置 ❶SRP 実習 11	3 章ー❶ーPCR 検査＋歯面清掃実習（相互実習：評価）
	37	III編　3 章　歯科衛生介入のための歯科予防処置 ❶SRP 実習 12	3 章ー歯科衛生評価；症例検討 4
	38	III編　1 章歯科衛生過程の進め方 1　（校内実習 1：準備）	III編　1 章ー❷歯科衛生過程の各構成要素　評価
	39	III編　1 章歯科衛生過程の進め方 1　（校内実習 2：準備）	III編　1 章ー❷歯科衛生過程の各構成要素　評価
	40	III編　1 章歯科衛生過程の進め方 3　（校内実習 1）	症例検討演習 1(模擬患者検討実習 1)
	41	III編　1 章歯科衛生過程の進め方 3　（校内実習 2）	症例検討演習 1(模擬患者検討実習 2)
	42	III編　1 章歯科衛生過程の進め方 3　（校内実習 3）	症例検討演習 1(模擬患者検討実習 3)
	43	III編　1 章歯科衛生過程の進め方 3　（校内実習 4）	症例検討演習 1(模擬患者検討実習 4)
	44	III編　1 章歯科衛生過程の進め方 3　（校内実習：記録）	症例検討演習 5(模擬患者検討実習 5)
	45	III編　3 章　歯科衛生介入のための歯科予防処置（木村）	レーザー治療の概要・実際(症例)

授業科目	歯科予防処置法 II	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	2 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	歯内療法・歯周療法学	担当教員	松本　崇嗣		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	20 回	時間数	40 時間
授業目的	歯内療法・歯周療法の基本知識を理解する。				
到達目標	歯内疾患を述べることができる。歯内治療における歯科衛生士の役割を述べることができる。歯周疾患を述べることができる。歯周療法における歯科衛生士の役割を述べることができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本　「歯の硬組織・歯髄疾患　保存修復・歯内療法」(医歯薬出版) ・最新歯科衛生士教本　「歯周病学」(医歯薬出版)　　・必要に応じてプリント配布				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	80	①定期試験 80% ②提出物（毎回の重要の要点をまとめたレポート）20%
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	20	
その他	0	

履修上の留意事項

①歯科衛生士教本を教科書として、黒板、スライド、ビデオなどを使って講師による授業を基本に、学生に課題を与え、口頭で発表させたり、レポートの提出によって、学生の理解を判断しながら進める。　②授業中は集中して、その場で理解するようにすること。　③理解できない時は、積極的に質問すること。
④予習をして、理解できない点を把握して授業で質問すると容易に理解ができる。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	歯周疾患 1 (松本)	歯周組織の構造と機能
2	歯内療法 1 (川浪)	歯内療法学の概要
3	歯周疾患 2 (松本)	歯周疾患の病態、原因、疫学
4	歯内療法 2 (川浪)	歯の痛み
5	歯周疾患 3 (松本)	歯周治療の進め方
6	歯内療法 3 (川浪)	歯髄疾患
7	歯周疾患 4 (松本)	歯周疾患の診査・診断
8	歯内療法 4 (川浪)	根尖性歯周組織疾患
9	歯周疾患 5 (松本)	基本治療(モチベーション、患者指導)
10	歯内療法 5 (川浪)	歯髄保存療法
11	歯周疾患 6 (松本)	基本治療(口腔清掃指導)
12	歯内療法 6 (川浪)	歯髄除去療法と器械・器具
13	歯周疾患 7 (松本)	基本治療(スケーリング・ルートプレーニング)
14	歯内療法 7 (川浪)	感染根管治療
15	歯周疾患 8 (松本)	外科的歯周治療
16	歯内療法 8 (川浪)	根管充填
17	歯周疾患 9 (松本)	咬合性外傷に対する治療法
18	歯内療法 9 (川浪)	外科的歯内療法
19	歯周疾患 10 (松本)	サポーティブセラピー
20	歯内療法 10 (川浪)	歯内療法における偶発症

授業科目	歯内療法・歯周療法学	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	歯科衛生統計(演習含む)	担当教員	藤澤　雅子		
対象年次・学期	2 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	歯科保健に関する統計資料を読み解き、歯科衛生士に必要な知識を習得する。				
到達目標	各種社会調査結果の見方および口腔健康指標の基本的統計処理方法を理解し、活用することができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「保健情報統計学」(医歯薬出版)　・参考資料 、プリントの配布　・電卓(学生が準備、携帯の電卓機能は不可)				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	50	①定期試験 50% ②PC 演習レポート 25% ③事前学習プリント 25%
	レポート	25	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	25	

履修上の留意事項	授業は、教本に沿って、講義・演習を取り入れる。表・グラフの書き方・読み方について実務的なトレーニングを行うと共に、数値処理になれるようにする。必ず自分で考えて提出作成すること(計算すること)。特に、PC 操作実習は欠席しないこと。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	1 章　保健情報と保健統計(藤澤)	保健情報、保健統計、保健情報の種類、国家統計調査
	2	2 章　保健情報と疫学(藤澤)	疫学、健康障害の発生要因、疫学の方法論
	3	3 章　歯科疾患の指数 1～3(藤澤)	数量化と指数、齲蝕の指数(DMF、RID など)
	4	3 章　歯科疾患の指数 1～3(藤澤)	歯周疾患の指数(PMA、GI、PI の演習)
	5	3 章　歯科疾患の指数 4(藤澤)	口腔清掃状態の指数(OHI、Q＆H の PI、PHP、PCR など)
	6	3 章　歯科疾患の指数 5(藤澤)	不正咬合と歯列不正の指数、フッ素症指数、歯科保健指標
	7	4 章　保健情報の分析手順(藤澤)	保健情報の収集、調査など
	8	4 章　保健情報の分析手順(藤澤)	保健情報の収集、質問紙作成手順など
	9	5 章　保健統計の方法 1～2(藤澤)	データの特性(データの尺度、分布)、記述統計(代表値、散布値、相関)
	10	5 章　保健統計の方法 3(藤澤)	推定と信頼区間
	11	5 章　保健統計の方法 4(藤澤)	t 検定(1 標本、2 標本、3 標本)など
	12	6 章　保健情報の分析演習 1　(佐藤)	プレゼンテーション：データの表現、図表の種類と特徴
	13	6 章　保健情報の分析演習 2　(佐藤)	プレゼンテーション：データの表現、図表の作り方
	14	6 章　保健情報の分析演習 3　(佐藤)	t 検定、$\chi 2$ 検定などのやり方
	15	6 章　保健情報の分析演習 4　(藤澤)	保健情報の多変量解析(重回帰分析、多重ロジスティック回帰分析)

授業科目	歯科衛生統計(演習含む)	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	2 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	矯正歯科学	担当教員	笠井　満知子		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	矯正学の基本的な知識を身につけ、日常的に歯科で受ける矯正学的疑問を自分で調べる力を養う。				
到達目標	国家試験に必要な基礎知識を身につけること。将来的に歯科医療機関で矯正治療のスタッフになり得る知識を持つこと。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本 「咀嚼障害・咬合異常 2　歯科矯正」(医歯薬出版)　　・参考資料　　・プリントの配付				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①定期試験 80% ②レポート 10% ③出席点 10%
	レポート	10	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	10	

履修上の留意事項	①基本的には教科書に沿って説明する。　②必要に応じてプリントも配付する。　③単元ごと必要に応じて小テストを行い、確認をする。 ④授業中に入退室、携帯電話の使用、私語は減点の対象とする。　⑤学生としての心得をわきまえ、礼節ある態度で受講する。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	Ⅰ－1 章　基礎知識、矯正歯科治療の概要　(丸岡) Ⅰ－2 章　基礎知識、成長・発育	矯正歯科治療の目的・需要・必要性 頭蓋・顎顔面・歯・歯列の発育、身体の成長・発育
	2	Ⅰ－3 章　基礎知識、正常咬合・不正咬合　(丸岡)	正常咬合、不正咬合の分類・原因・予防
	3	Ⅰ－4 章　矯正歯科診断　(丸岡)	矯正治療における診断と必要な検査、症例分析・非抜歯治療と抜歯治療
	4	Ⅰ－5 章　矯正歯科治療と“力”－矯正力・保定　(丸岡)	歯の移動と固定、組織反応、歯の移動様式、矯正力と顎整形力、保定
	5	Ⅰ－6 章　矯正装置　(丸岡)	可撤式矯正装置・固定式矯正装置、機能的矯正装置、上顎拡大装置・顎外固定装置、口腔習癖除去装置・保定装置など
	6	Ⅲ－1 章　診断に関わる業務　(丸岡)	検査の補助、インフォームドコンセント
	7	Ⅲ－2 章　診療時の業務 1　(丸岡)	矯正用器具・材料の準備と取り扱い、装置時の補助と指導
	8	Ⅲ－2 章　診療時の業務 2　(丸岡)	機能的矯正装置装着時の補助と指導、顎外固定装置装着時の補助と指導
	9	Ⅲ－1 章　矯正歯科診断にかかわる業務　(萱野)	矯正歯科における歯科衛生士の役割
	10	Ⅲ－2 章　矯正歯科診療時の業務 1　(萱野)	各種プライヤー使用方法・把持方法
	11	Ⅲ－2 章　矯正歯科診療時の業務 2　(萱野)	各種ワイヤーの取り扱い、ブラケット装着の流れとアシスタントワーク
	12	Ⅲ－2 章　矯正歯科診療時の業務 3　(萱野)	バンドセット流れ
	13	Ⅲ－2 章　矯正歯科診療時の業務 4　(萱野)	ブラケットセット流れ
	14	Ⅲ－2 章　矯正歯科診療時の業務 5　(萱野)	結紮実習
	15	Ⅲ－3 章　矯正歯科患者と口腔保健管理　(萱野)	矯正装置周囲の TBI について

授業科目	矯正歯科学	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	医療保険事務	担当教員	工藤　由加里		
対象年次・学期	2 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	受付業務の 1 つである歯科医療事務管理について学ぶ。				
到達目標	保険上の算定の原則を理解し、診療行為の点数と一部負担金の計算ができる。診療録（症例）への記載事項を理解しパソコンを使用して入力することができる。				
テキスト・参考図書等	・「歯科診療報酬の解説と算定の手引き」（日本医療事務協会）　　・必要時プリント配付				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①定期試験 80% ②レポート点・レセプト作成 20%
	レポート	20	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	講義で習得した知識を基に、パソコンを使用してレセプトの作成演習を行う。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	医療保険制度の基礎知識	保険の種類と一部負担割合、保険点数について
	2	初期う蝕の治療(C 処置)	治療の概要、算定方法、レントゲン撮影
	3	歯髄炎の治療(Pul)	病名と処置の流れ、麻酔、投薬
	4	歯根膜炎の治療(Per)	病名と処置の流れ、外科処置
	5	歯周疾患(P、G)	病名と処置の流れ、各種指導料の算定
	6	その他の口腔内疾患の治療	粘膜病名、顎関節病、乳歯に多い病名
	7	欠損補綴(MT　ブリッジ)	支台歯形成～ブリッジ装着まで
	8	欠損補綴(MT　有床義歯)	補綴診断～義歯装着まで(PD、FD)
	9	裏装、義歯破損、義歯不適合	その他有床義歯に関わる病名と処置
	10	脱離・再装着	冠、ブリッジの脱離再装着、修理、未来院
	11	レセプト業務	レセプト請求業務とは？総括、福祉医療
	12	カルテ症例:保存修復	診療録の症例に従って、診療報酬明細書の作成練習 1
	13	カルテ症例:クラウン・ブリッジ	診療録の症例に従って、診療報酬明細書の作成練習 2
	14	カルテ症例:歯周疾患	診療録の症例に従って、診療報酬明細書の作成練習 3
	15	カルテ症例:口腔外科	診療録の症例に従って、診療報酬明細書の作成練習 4

授業科目	医療保険事務	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	2 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	歯科保健指導法Ⅱ	担当教員	松岡　円		
対象年次・学期	2 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	45 回	時間数	90 時間
授業目的	個人や集団を対象とした歯科保健指導の演習・実習を行い、歯科保健における問題点とその解決法を学ぶ。				
到達目標	集団対象者別のその特徴を理解し、保健指導内容に反映させ適切な援助ができる。対象別に各種教材が作成でき、作成要領や活用法を述べることができる。専門職として正しく情報が収集でき、問題抽出ができた上で解決方法を述べることができる。主な歯科疾患に対する処置の流れ、手順を述べることができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)　・使用器材：スケーラーセット、顎模型、グローブ、マスクなど				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①定期試験 80% ②レポート 10% ③実習態度・技能点 10%
	レポート	10	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	10	

履修上の留意事項	①講義、演習、実習を同時進行で行う。　②爪、頭髪など身だしなみを整えて臨むこと。アクセサリー、時計は外す。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	Ⅲ編　2 章歯科衛生過程の各構成要素（西里）	2 章ー4.歯科衛生介入（実施）
	2	Ⅳ編　1 章ライフステージに対応した歯科衛生介入 1-❶（西里）	1 章ー❶妊産婦期指導 妊産婦と授乳期の食生活指導 1
	3	Ⅳ編　1 章ライフステージに対応した歯科衛生介入 1-❶（西里）	1 章ー❶妊産婦期指導　　3.妊産婦期の歯科保健介入（演習）
	4	Ⅳ編　1 章ライフステージに対応した歯科衛生介入 1-❶（西里）	1 章ー❶妊産婦期指導 妊産婦と授乳期の食生活指導のまとめ
	5	Ⅳ編　1 章ライフステージに対応した歯科衛生介入 2-❷（西里）	1 章ー❷乳児期　口腔の特徴と離乳食
	6	Ⅳ編　1 章ライフステージに対応した歯科衛生介入 2-❷（西里）	1 章ー❷乳児期　2.乳児期の歯科保健介入（演習）
	7	Ⅳ編　1 章ライフステージに対応した歯科衛生介入 2-❷（西里）	1 章ー❷乳児期　口腔の特徴と離乳食指導のまとめ
	8	Ⅳ編　1 章ライフステージに対応した歯科衛生介入 3-❸（西里）	1 章ー❸幼児期　食生活の特徴・間食
	9	Ⅳ編　1 章ライフステージに対応した歯科衛生介入 3-❸（西里）	1 章ー❷幼児期　3.幼児期の歯科保健介入（演習）
	10	Ⅲ編　4 章歯科衛生介入としての歯科保健指導❷ー1(西里) Ⅳ編　1 章ライフステージに対応した歯科衛生介入 3-❸	4 章－❷口腔機能の発達に関する指導 1 章ー❸幼児期　食生活の特徴・間食まとめ
	11	Ⅳ編　1 章ライフステージに対応した歯科衛生介入 4-❹（西里）	1 章ー❹学齢期　口腔・食生活の特徴

	12	Ⅳ編　1 章ライフステージに対応した歯科衛生介入 4-❹ (西里)	1 章ー❹学齢期　4.学齢期の歯科保健介入（演習）
	13	Ⅳ編　1 章ライフステージに対応した歯科衛生介入 4-❹ (西里)	1 章ー❹学齢期　口腔・食生活の特徴　まとめ
	14	Ⅳ編　1 章ライフステージに対応した歯科衛生介入 5-❺ (西里)	1 章ー❺青年期　口腔・食生活の特徴
	15	Ⅳ編　1 章ライフステージに対応した歯科衛生介入 5-❺ (西里)	1 章ー❺青年期　5.青年期の歯科保健介入（演習）
	16	Ⅳ編　1 章ライフステージに対応した歯科衛生介入 6-❻ (西里)	1 章ー❻成人期　生活習慣予防と栄養指導
	17	Ⅳ編　1 章ライフステージに対応した歯科衛生介入 6-❻ (西里)	1 章ー❺成人期　6.成人期の歯科保健介入（演習）
	18	Ⅳ編　1 章ライフステージに対応した歯科衛生介入 7-❼ (西里)	1 章ー❼老人期　老人期の低栄養と食生活指導　摂食嚥下障害と栄養
	19	Ⅳ編　1 章ライフステージに対応した歯科衛生介入 7-❼ (西里)	1 章ー❼老人期　7.老人期の歯科保健介入（演習）
	20	ライフステージ－成人期② (伊藤)	成人期の指導の演習
	21	Ⅲ編　4 章歯科衛生介入としての歯科保健指導❷ー1 (西里) Ⅳ編　1 章ライフステージに対応した歯科衛生介入 7-❼	4 章－❷口腔機能の低下に関連する指導 1 章ー❼老人期　7.老人期の歯科保健介入（演習）
	22	Ⅲ編　2 章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報発達 Ⅳ編　2 章配慮を要する者への歯科衛生介入 1-❶ (西里)	2 章ー❸認知機能の評価 2 章ー❶要介護高齢者　一般的・口腔の特徴
	23	Ⅳ編　2 章配慮を要する者への歯科衛生介入 1-❶ (西里)	2 章ー❶要介護高齢者　食生活指導
	24	Ⅳ編　2 章配慮を要する者への歯科衛生介入 1-❶ (西里)	2 章ー❶要介護高齢者　1.要介護高齢者の歯科保健介入（演習）
	25	Ⅳ編　2 章配慮を要する者への歯科衛生介入 2-❷ (西里)	2 章ー❷障がい者　食生活の特徴と栄養
	26	Ⅳ編　2 章配慮を要する者への歯科衛生介入 2-❷ (西里)	2 章ー❷障がい者　3.障がい者の歯科保健介入（演習）
	27	Ⅳ編　2 章配慮を要する者への歯科衛生介入 3-❸ (西里)	2 章ー❸大規模災害被災者　歯科保健医療のためのアセスメント
	28	Ⅳ編　2 章配慮を要する者への歯科衛生介入 4-❸ (西里)	2 章ー❸大規模災害被災者　災害時の多職種連携について
	29	Ⅴ編　1 章地域歯科保健活動における健康教育❶ (藤澤)	1 章－❶健康教育の進め方　教材の活用
	30	Ⅴ編　2 章地域歯科保健活動のフィールド❷ー1 (藤澤)	小学校における健康教育　学習指導案ー計画案の検討（演習）
	31	Ⅴ編　2 章地域歯科保健活動のフィールド❷ー2 (藤澤)	小学校における健康教育　学習指導案ー教材・シナリオの作成（演習）

	32	Ⅴ編　2 章地域歯科保健活動のフィールド❷ー3 (藤澤)	小学校における健康教育　総合練習（演習）
	33	Ⅴ編　2 章地域歯科保健活動のフィールド❷ー4 (藤澤)	小学校における健康教育　総合演習第 1 次評価
	34	Ⅴ編　2 章地域歯科保健活動のフィールド❷ー5 (藤澤)	小学校における健康教育　総合演習の再検討
	35	Ⅴ編　2 章地域歯科保健活動のフィールド❷ー6 (藤澤)	小学校における健康教育　総合演習第 2 次評価
	36	Ⅴ編　2 章地域歯科保健活動のフィールド❺ー1 (藤澤)	障がい者施設における健康教育　学習指導案ー計画案の検討（演習）
	37	Ⅴ編　2 章地域歯科保健活動のフィールド❺ー2 (藤澤)	障がい者施設における健康教育　学習指導案ー教材・シナリオの作成　　（演習）
	38	Ⅴ編　2 章地域歯科保健活動のフィールド❺ー3 (藤澤)	障がい者施設における健康教育　総合練習（演習）
	39	Ⅴ編　2 章地域歯科保健活動のフィールド❺ー4 (藤澤)	障がい者施設における健康教育　総合演習第 1 次評価
	40	Ⅴ編　2 章地域歯科保健活動のフィールド❺ー5 (藤澤)	障がい者施設における健康教育　総合演習の再検討
	41	Ⅴ編　2 章地域歯科保健活動のフィールド❺ー6 (藤澤)	障がい者施設における健康教育　総合演習第 2 次評価
	42	Ⅴ編　2 章地域歯科保健活動のフィールド❶ー1 (藤澤)	保育園における健康教育　学習指導案ー計画案の検討（演習）
	43	Ⅴ編　2 章地域歯科保健活動のフィールド❶ー2 (藤澤)	保育園における健康教育　学習指導案ー教材・シナリオの作成（演習）
	44	Ⅴ編　2 章地域歯科保健活動のフィールド❶ー3 (藤澤)	保育園における健康教育　総合練習（演習）
	45	Ⅴ編　2 章地域歯科保健活動のフィールド❶ー4 (藤澤)	保育園における健康教育　総合演習第 1 次評価と再検討
	46	Ⅴ編　2 章地域歯科保健活動のフィールド❶ー5 (藤澤)	保育園における健康教育　総合演習第 2 次評価
	47	総合演習 1　（藤澤）	臨地・臨床報告会のスライド作成
	48	総合演習 2　（藤澤）	臨地・臨床報告会の口述文作成
	49	総合演習 3　（藤澤）	臨地・臨床報告会のプレゼンテーション練習 1
	50	総合演習 4　（藤澤）	臨地・臨床報告会のプレゼンテーション練習 2

授業科目	歯科保健指導法 II	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	2 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	口腔ケア基礎実技	担当教員	工藤　由加里		
対象年次・学期	2 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	お口の専門家として「口腔ケア」の必要性を理解し、施設、在宅での多職種と連携した「口腔ケア」「口腔リハビリ」の支援について学ぶ。				
到達目標	高齢に伴う口腔内の変化と摂食嚥下障害との関連性が述べることができる。口腔内の状況に合わせた適切な口腔ケア技術を行うことができる。				
テキスト・参考図書等	・「口腔ケア基礎知識」（日本口腔ケア学会）　　・必要時プリント配付				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①定期試験 80% ②レポート 10% ③実習技能点 10%
	レポート	10	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	10	

履修上の留意事項	①講義：高齢者、障がい者の口腔ケアの基礎知識～疾患別応用技術。　②相互実習で、口腔乾燥や麻痺を体験し口腔ケアグッズの使用方法を理解。　③開口困難、意思疎通困難、出血傾向、非経口摂取の口腔ケア。　④地域包括ケアシステム時代の介護予防のための口腔ケア。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	口腔のしくみと働き（工藤）	高齢に伴う口腔組織の加齢変化、全身疾患と口腔観察のポイント
	2	口腔ケアグッズ　（工藤）	歯ブラシ、歯磨剤、歯間ブラシ、補助清掃道具、口腔保湿剤、吸引器具
	3	うがいができない、水分保持困、むせる　（工藤）	口腔機能の理解
	4	相互実習①　（工藤）	コミュニケーション、リラクゼーション、ポジショニング、口腔内観察、口腔アセスメント
	5	義歯装着、相互実習②（工藤）	義歯の構造、清掃、管理、着脱、義歯安定剤 コミュニケーション、リラクゼーション、口腔内観察、口腔ケア、うがい吐き出し
	6	出血傾向、相互実習③（工藤）	歯肉出血、出血傾向 コミュニケーション、リラクゼーション、ポジショニング、口腔内観察、口腔ケア、口腔乾燥
	7	口腔乾燥、相互実習④（工藤）	非経口摂取の理解 コミュニケーション、リラクゼーション、口腔内観察、うがいができない、吸引器具使用
	8	口腔機能訓練、相互実習⑤（工藤）	機能的口腔ケアを学ぶ。口腔リハビリ、摂食嚥下障害の間接訓練
	9	食形態と口腔ケア、相互実習⑥　（工藤）	摂食障害のある人の口腔ケア留意点、摂食嚥下障害の評価方法と検査方法
	10	その他　（工藤）	在宅、介護認定、認知症、終末期
	11	口腔機能向上プログラム 1（藤澤）	口腔機能向上プログラム立案
	12	口腔機能向上プログラム 2（藤澤）	健康教育に必要な教材・シナリオ作成
	13	口腔機能向上プログラム 3（藤澤）	健康教育の総合練習 1
	14	口腔機能向上プログラム 4（藤澤）	健康教育の総合練習 2
	15	口腔機能向上プログラム 5（藤澤）	健康教育の評価

授業科目	口腔ケア基礎実技	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	2 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床心理学	担当教員	藤澤　雅子		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	心理学の基礎知識を理解した上で、臨床での患者心理を考える。				
到達目標	心理学の基本的な知識や実験手法、先行知見を学ぶことにより、患者やスタッフの立場を客観的にとらえる考え方を論じることができる。				
テキスト・参考図書等	・わたしそしてわれわれ(北大路書房)				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	60	①定期試験 60% ②レポート 20% ③提出物 20%
	レポート	20	
	小テスト	0	
	提出物	20	
	その他	0	

履修上の留意事項	①プリントや板書を中心とした講義形式の授業と、実際の体験やビデオによる学習なども取り入れる。 ②提出物は期限厳守。 ③その他、授業の進行に差し障りのある行為に対する諸注意を守る。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	脳と心	脳の成り立ちとその働き
	2	知覚のプロセス	知覚の体制化・恒常性
	3	動機づけと感情	動機づけと感情
	4	行動の獲得と変容	古典条件づけ・オペラント条件づけ
	5	成長と変化	遺伝と環境
	6	パーソナリティ	類型論・特性論
	7	心の構造	心的構造論
	8	対人認知	パーソナリティの認知
	9	親しみのコミュニケーション	会話の促進、男女のコミュニケーション
	10	対人関係の発展	対人関係の発展プロセス・社会的交換理論
	11	集団と人間	集団疑集性、集団規範、集団成員圧
	12	住みやすい社会を築く	援助のメカニズム、社会的迷惑行為
	13	協調できる社会をめざす	暴力犯罪の発生メカニズム、社会的スキルの重要性
	14	広告と大衆	要請技法のアラカルト
	15	文化と心	日本人らしさ

授業科目	臨床心理学	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨地・臨床実習 II	担当教員	橋本　李奈		
対象年次・学期	2 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	270 回	時間数	540 時間
授業目的	診療の補助業務実習、小児歯科・口腔外科・矯正歯科など専門的な業務の実習、幼児・高齢者・障害者を対象とした歯科衛生教育の実習を通して、歯科衛生士として必要な資質能力を高める。				
到達目標	歯科医師、歯科衛生士が行う診療の補助、介助ができる。使用した器具、器材の消毒、滅菌、保管と管理ができる。ライフステージに合わせた歯科衛生教育ができる。				
テキスト・参考図書等	・歯科医院実習：臨床実習帳、スケーラーセット、顎模型、口腔ケアセットなど ・保育園、高齢者施設：臨床実習帳、顎模型、口腔ケアセット、指導用教材など				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	0	＊評価基準 A:優れている(助言なしでもほぼできる)　B:できるが発展性がない(多くの助言・指導があればできる) C:劣っている(多くの助言・指導があってもできない) D:見学・実習をしていない(出席日数不足) ＊評価項目 ①医療従事者としての基本姿勢、態度　②月別実習項目の知識 ③月別実習項目の技能 ①～③をそれぞれ評価後、総合評価する：A(80～100 点)、B(70～79 点)、C(60～69 点)、D(59 点以下)
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	100	

履修上の留意事項	①主に診療室での実習を中心に行う。　②保育園、高齢者、障害者施設、中学校で歯科衛生教育を実施する。　③体調管理に気を付ける(欠席、遅刻、早退は厳禁)。　④実習生としてのマナー・清潔な白衣、エプロン、実習靴、マスク、グローブを身につける。化粧・毛染めはしない、頭髪、爪、ピアスは外す。挨拶、返事、言葉遣い。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	臨床実習	
2	①歯科医院見学実習	歯科診療の補助と介助をする。
3	②病院歯科実習	全身疾患をもった患者の歯科治療業務を実習する。
4	臨地実習	
5	保育園実習	園児とコミュニケーションを図りながら、口腔衛生指導を実践する。
6	高齢者施設見学実習	要介護高齢者の ADL を把握し、口腔ケアプランを実施する。
7	障害者(児)施設実習	障害者とふれあい、援助的なかかわりの姿勢を身につける。
8	計　83 日間	

授業科目	臨地・臨床実習 II	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	2 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	栄養指導	担当教員	大島　美奈子		
対象年次・学期	2 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	患者の食生活の把握、齲蝕予防や歯周疾患治療のための食生活指導、慢性疾患をかかえた高齢者、寝たきり者への食事指導について学ぶ。				
到達目標	各栄養素の基礎知識を学び、三大栄養素の代謝メカニズムを述べることができる。対象者にあった食事を指導することができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本 「人体の構造と機能 2　栄養と代謝」(医歯薬出版) ・プリント				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	80	①定期試験 80% ②レポート点 20%
レポート	20	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項

①講義は、栄養の基礎（藤澤先生）と歯と口の生化学（山内先生）に分けて行う。
②演習は、図や表を使って理解を深める。
③調理実習は、砂糖の少ないおやつや噛むおやつ、寝たきり者へのとろみ食、ミキサー食なども作って、試食する。(担当：大島先生)

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	歯と歯周組織の生化学 (藤澤)	結合組織
2	硬組織の生化学　(藤澤)	石灰化の仕組み
3	唾液の生化学　(藤澤)	唾液の組成と機能
4	プラークの生化学　(藤澤)	プラークの組成
5	プラークの生化学　(藤澤)	齲蝕の発症機序
6	プラークの生化学　(藤澤)	歯周疾患発症機序
7	栄養の基礎知識　(大島)	栄養素の消化・吸収
8	食事摂取基準　(大島)	推定エネルギー必要量、基礎代謝
9	食事摂取基準　(大島)	日本人の食事摂取基準
10	栄養素の働き　(大島)	糖質栄養的意味
11	栄養素の働き　(大島)	タンパク質の栄養的意味
12	栄養素の働き　(大島)	脂質の栄養的意味
13	栄養素の働き　(大島)	ビタミンの栄養的意味
14	栄養素の働き　(大島)	無機質・水の栄養的意味
15	食生活と食品　(大島)	望ましい食生活
16	食べ物と健康　(大島)	食べ物の物性
17	食生活と健康　(大島)	ライフステージ別の栄養と調理実習－離乳食
18	食生活と健康　(大島)	ライフステージ別の栄養と調理実習－離乳食
19	食生活と健康　(大島)	ライフステージ別の栄養と調理実習－間食
20	食生活と健康　(大島)	ライフステージ別の栄養と調理実習－間食
21	食生活と健康　(大島)	ライフステージ別の栄養と調理実習－きざみ食

	22	食生活と健康　（大島）	ライフステージ別の栄養と調理実習－きざみ食
	23	生体の構成要素　（藤澤）	細胞の役割、生体における水
	24	生体の構成要素　（藤澤）	生体構成成分と栄養素
	25	生体における化学反応（藤澤）	消化と吸収
	26	生体における化学反応（藤澤）	代謝
	27	糖質と脂質の代謝　（藤澤）	エネルギーの生成
	28	タンパク質とアミノ酸代謝（藤澤）	アミノ酸の代謝分解とタンパク質の合成
	29	生体における恒常性の維持（藤澤）	血液の緩衝能と血糖値
	30	総括　（藤澤）	まとめ

授業科目	栄養指導	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	2 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	社会福祉概論	担当教員	藤澤　雅子		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	社会保障の発展過程およびその基本理念を学ぶとともに、現行の社会福祉・社会保険制度の種類と内容および今後のあり方について学習する。社会福祉の基本的な理念および福祉サービスを提供する際の基本的な考え方について学習する。				
到達目標	社会福祉・社会保険・公的扶助の役割と立場の違いについて説明できる。とりわけ、歯科保健医療とのかかわりの深い医療保険制度の種類と仕組みについて確実に理解し、述べることができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯･口腔の健康と予防に関わる人間の社会のしくみ 2　歯科衛生士と法律・制度」(医歯薬出版)　・プリント　・その他				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①定期試験 80% ②小テスト 10% ③レポート 10%
	レポート	10	
	小テスト	10	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①教科書・スライド・プリント等を使用予定。 ②歯科衛生士と社会との関わりについて、想像力を膨らませながら学習する。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	社会保障 1　(藤澤)	社会保障、社会保険、医療保険、医療保険の種類
	2	社会保障 2　(藤澤)	健康保険の種類、健康保険法、国民健康保険法等
	3	社会保障 3　(藤澤)	高齢者の医療を確保に関する法律、審査支払機関
	4	介護保険 1　(渡邊　紀子)	介護保険制度と法規
	5	介護保険 2　(渡邊　紀子)	地域包括ケアと地域包括支援センターの役割
	6	介護保険 3　(渡邊　紀子)	介護認定後のケアプラン作成
	7	介護保険 4　(渡邊　紀子)	施設～種類、目的、施設にいる職種と連携など
	8	介護保険 5　(町田)	在宅サービス 1～サービスの種類
	9	介護保険 6　(渡邊　紀子)	在宅サービス 2～訪問看護の役割、連携
	10	介護保険 7　(真井)	在宅サービス 3～訪問栄養士の役割、連携
	11	介護保険 8　(渡邊　譲)	在宅サービス 4～歯科衛生士の役割、連携
	12	介護保険 9　(渡邊　譲)	食支援チームの一員としての歯科衛生士の役割、連携
	13	年金保険、雇用保険 (藤澤)	年金保険、雇用保険、労働者災害補償保険
	14	社会福祉　(藤澤)	社会福祉行政～生活保護、障碍者・児童福祉など
	15	まとめ　(藤澤)	社会保障、介護保険、年金保険、社会福祉などのまとめ

授業科目	社会福祉概論	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	3 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	歯科放射線学	担当教員	山野　茂		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	放射線に対する正しい知識を習得する。				
到達目標	画像診断の意義と放射線の取り扱いの基本を述べることができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯科放射線」(医歯薬出版)				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	90	①定期試験 90% ②レポート 10%
	レポート	10	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①必要なことは黒板に板書し、理解を深めるためパソコンでプレゼンテーションを行う。　②質問を歓迎する。　③一方的な授業は避けたい。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	1 章　歯科医療と放射線(箕輪)	放射線とその性質
	2	2 章　エックス線画像の形成　(岩井)	エックス線と画像の形成、エックス線フィルムと増感紙、デジタル画像系
	3	3 章　歯科におけるエックス線検査　(岩井)	口内法エックス線撮影、パノラマエックス線など
	4	4 章　口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割 1　(岩井)	全顎撮影(10 枚法)の部位別撮影の要点(実習 1-①)
	5	4 章　口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割 2　(岩井)	口内法エックス線写真のみかた(実習 1-②)
	6	4 章　口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割 3　(岩井)	写真処理と画像保管の実際(実習 1-③)
	7	4 章　口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割 4　(岩井)	咬翼法・咬合法の撮影の要点(実習 2ー①)
	8	4 章　口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割 5　(岩井)	口内法エックス線写真のみかた(実習 2ー②)
	9	4 章　口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割 6　(岩井)	写真処理と画像保管の実際(実習 2-③)
	10	5 章　パノラマエックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割 1　(岩井)	パノラマエックス線撮影の準備(実習 3－①)
	11	5 章　パノラマエックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割 2　(岩井)	パノラマエックス線写真のみかた(実習 3－②)
	12	5 章　パノラマエックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割 3　(岩井)	写真処理と画像保管の実際(実習 3－③)
	13	6 章　写真処理と画像保管の実際　(松本)	現像と定着、手現像と自動現像、デジタル撮影など
	14	7 章　放射線治療と口腔管	CT、MRI、超音波、頭頸部癌の治療と口腔衛生

		理　（松本）	
	15	総括　（藤澤）	まとめ

授業科目	歯科放射線学	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		